

屋久島におけるフィールド調査実習 報告書

京都大学霊長類研究所 人類進化モデル研究センター
技術専門職員 森本真弓

日程： 2014年3月13日～3月15日

場所： 屋久島（屋久島観察ステーション・西部林道・白谷雲水峡）

引率者： 京都大学野生動物研究センター幸島観察所 鈴木崇文（技術専門職員）

同行者： 愛洲星太郎（技術職員）、夏目尊好（技術職員）

目的： 屋久島に生息する野生ザルを実際に観察することにより、フィールド調査の方法を体得すること。

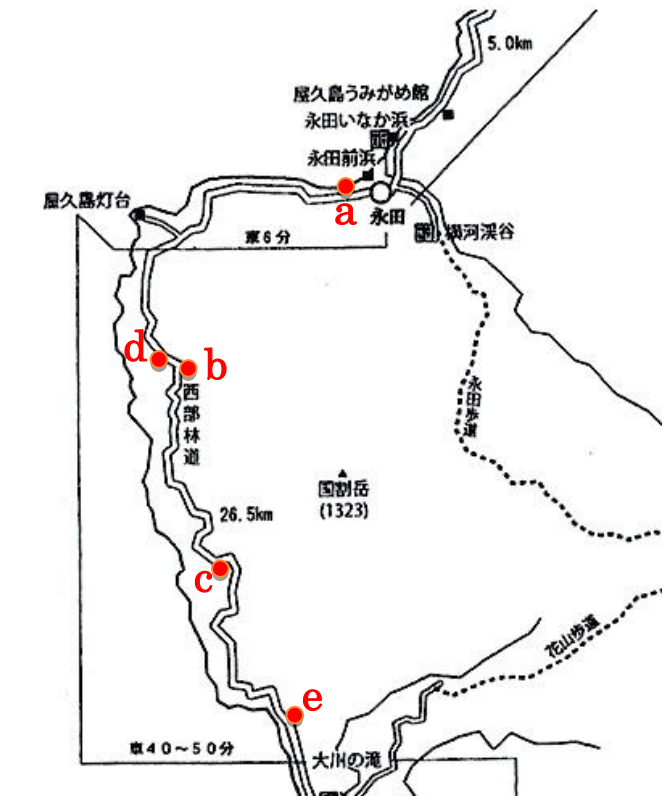
訪問地詳細：

3/14（金）

a. 11:00 屋久島観察ステーション 見学



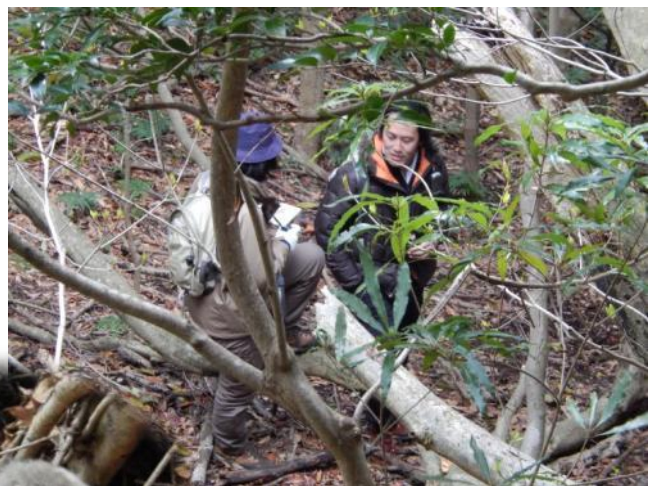
b. 11:40-12:45 No.28カーブ付近道路脇に群。シカもたくさんいた。





c. 14:00-14:40 No. 55 カーブ奥
道を外れて探すも見つからず。

d. 15:00-16:00 No.22 カーブ奥
他の研究者と遭遇。
林内を移動するサルを追いかけて観察。



3/15 (土)

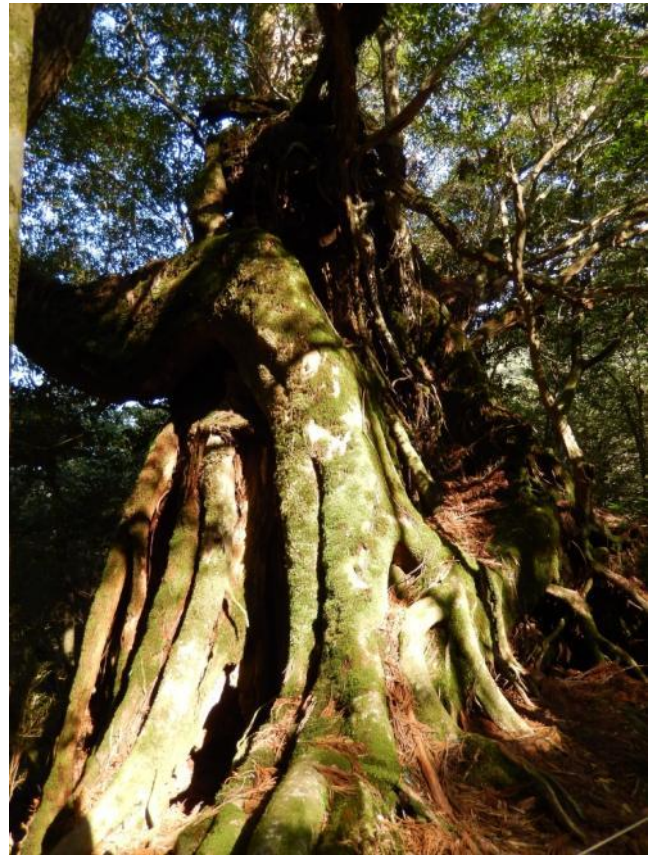
e. 10:05-11:00 No.75 カーブ付近
道路脇に大きな群れ。
警戒心が大きい群れだった。



3/14 昼ごろから 3/15 午前中にかけて、西部林道付近にて、まとまった 3 群を発見し、行動観察することが出来た。ヤクザルは本土ザルに比べて毛色が薄く(グレーに近い?) 小ぶりの体格という印象を受けた。毛並みは飼育下と比べてかなり良かった。飼育下でも木の葉や草を食べている姿は見かけるが、地面に落ちた枯葉をかき分けながら何かを食べている姿(虫か?)は、あまり見たことが無かったので、印象的だった。

f. 14:00－15:45 白谷雲水峡

天然の屋久杉やコケが作る素晴らしい景観を鑑賞することが出来た。



最後に：

今まで野生ザルの捕獲調査の手伝いなどに何度か参加させていただいたことはあったが、野生ザルの自然な行動を観察させていただく機会は初めて与えていただいた。保護林や国有林内に入って調査するのに必要な書類に始まり、GPS や地図の使い方、サルの探し方、サルの接し方などの野生のサルの観察方法を教えていただけたのは、もちろん勉強になったのだが、それ以上に、野生ザルの自然な行動を、有る程度まとまった時間をかけて、じっくり見ることが出来たのが、大変良かった。野生のヤクザルは、常に動いているか、食べているか、グルーミングしているか、という印象を受けた。飼育下のサルに対しても、工夫を凝らし、少しでも自然に近い環境を与えていきたいと思う。たくさんの方々のご協力で、このような貴重な機会を得ることが出来ました。感謝致します。ありがとうございました。